



厚生労働大臣賞  
最優秀賞

# 教えて！ドクター こどもの病気とおうちケア

一般社団法人佐久医師会(教えて！ドクタープロジェクト)

## 取組の経緯について

近年核家族化が進み、子育てを相談できる人が周りにおらず、子育て不安を抱える夫婦は少なくありません。突然の発熱や嘔吐、発疹など小児特有の病気への対応に自信のない保護者も多いです。当プロジェクトでは、小児の病気の症状やホームケアの知識、病院受診の目安を分かりやすく伝えることで、保護者の子育て不安の軽減、家庭内看護力の向上を目的としています。また、保護者が正確な知識を得ることで軽症患者の小児救急受診が抑制されれば、救急医療現場の負担軽減、医療費の軽減につながることも期待しています。

我々の取り組みは、医療者と保護者の間で共有できるコンテンツ(共通言語)を作成することで、医療現場の負担軽減と保護者の子育て不安の軽減を目指そうという取り組みで、2015年より、子育て支援事業の一環として「小児科医は地域に出よう」「子どもの健康を守る主役は保護者」「小児救急外来の負担軽減」をコンセプトに、保育園等での出前講座も始めました。

## 事業の概要と特徴

小児科医師とイラストデザイナー、Web・アプリ制作者、発達支援NPO法人代表からなるプロジェクトチームにより、病気のホームケア、病院受診の目安、予防接種等をまとめた冊子を制作しました。2015年に初版を発行し、配布数は累計12000冊です。2016年には冊子内容を移植したアプリを制作しました。受診目安を判断できるコンテンツを搭載し、アプリから救急車を呼んだり、子育て相談窓口へ電話相談も可能(佐久地域のみ)です。予防接種スケジュールも搭載しています。アプリは全国で無料配信され、ダウンロード数は現在約21万件(2020年10月現在)です。

また、医師会の小児科医が保育園で出前講座を実施しており、開始後5年間で延べ78園、3401名が参加しました。

最近ではSNSを通じての情報提供も行い、2020年は新型コロナ禍のため出前講座をオンラインで開催するとともに、学校現場への情報提供、多言語資料の提供にも取り組んでいます。

## 医療のかかり方を変えていくポイント

新型コロナ禍において、氾濫する情報を正しく取捨選択する力がますます求められています。そのためには正確な医療情報へのアクセスを容易にする取り組みが欠かせません。アクセスしやすいプラットフォーム開発が求められており、身近なデバイスであるスマホを活用したアプリはその一助になり得ます。こどもの健康に関する医療情報を1箇所に集約した教えてドクターの冊子、アプリ、出前講座、SNSでの啓発を通じて、保護者と医療者の知識のギャップを少しでも埋められるよう医療情報の共有を目指します。それが家庭内看護力の醸成に、ひいては医療機関の適正受診にも繋がります。小児の医療情報啓発を通じて子育て世代の医療リテラシーが向上すると、彼らが50~60代になって自身の健康を考える年齢になった時、彼ら自身を助けることにも繋がります。子育て世帯のヘルスリテラシー向上は、未来の医療のかかり方を変えていくことにも繋がるのです。

